

TOKYO人権



特集 01 「ありがとう」は魔法の言葉 中島啓江

特集 02 うつは人生の夏休みかも…
コミックエッセイ『ツレがうつになりまして。』

vol. **33** 2007.04

財団法人 東京都人権啓発センター

特集 01

TOKYO人権

「ありがとう」は魔法の言葉

昨年10月、愛くるしいキャラクターとして多方面で活躍されている歌手の中島啓江さんが、絵本を出版しました。

絵本のあらすじは、こうです。——クラスのいじめっ子に嫌がらせを受けていた“わたし”は、転校することになりました。そのことを誰にも伝えず、黙って消えてしまいたいと考えていた“わたし”に、母は「お別れをする時は、誰もが“ありがとう”の気持ちを伝えるものなの」と優しく諭します。いよいよ転校当日の朝、“わたし”は母との約束を守ることを考えて嫌々ながらクラス中の一人ひとりにプレゼントを手渡し、真っすぐに相手の目を見て「ありがとう」と挨拶して回りました。そして最後に残ったのは、あのいじめっ子。でも、信じられないことに“わたし”の口からは自然に「ありがとう」という言葉が出てきたのです。すると、小さな声でその子は言いました。「ごめんなさい」、そして「ありがとう」と——。

親子で絵本を読んで
素敵な「ありがとう」が
言える人になってほしい。

『わたしから、ありがとう。』
Q を作るようになった経緯
を教えてください。

一昨年、あるテレビ番組に出演させていただいたのですが、たまたま絵本作家の河原まり子さんがその放送をご覧になっていたことがきっかけです。とくに、わたしがいじめを受けていた小学校から転校する日のエピソードに、とても感動されたようです。そして放送後「その体験を子どもたちにも伝えるため、ぜひ絵本にしましょう」という素敵なお手紙をいただき、「私と母

の心と意思をわかっていただけるのなら」ということで協力しました。絵本ですから多少の脚色はありますが、大筋はわたしが実際に体験したことです。わたしにとっては、とても衝撃的で感動的な体験でした。生前の母に贈ってもらった「啓江、“ありがとう”ってたくさん言えば、あとできっと自分にも返ってくるよ」という言葉は、いまでもわたしの心に深く刻まれています。

ただ、最初に絵本のお話をいただいた時、じつは「どうしようかな」と迷っていたんです。実際、あの頃はいじめ体験はとてもつらいものでしたし、母が亡くなった翌年、母との半生を綴った『じゃあね』という本の中でも同じエピソードを書いているだけに、そこでおしまいにした



なかじま けいこ
中島 啓江さん

鹿児島県出身。昭和音楽短期大学ディプロマコース・オペラ専攻科修了。1986年、初のソロ・コンサート「天高くオペラ肥ゆる秋」を行う。その後、宮本亜門演出のミュージカル「I GOT MERMAN」、NHK「音楽夢コレクション」、TBS「平成名物TV・イカサバンド天国」などテレビにも出演。2006年8月に、後世に「伝えたい」曲シリーズの第一弾としてミニアルバム「千の風になって」をリリース。「My Favorite Songs」「Good Night」などCD多数。著書に『じゃあね』（KTC中央出版）、『いつも心にありがとう』（グラフ社）など。現在、コンサート、ディナーショーのほか、テレビ、ラジオ、CM、講演など幅広く活躍中。また、毎年3月に銀座博品館劇場で行う「夢で逢いましょう」、毎年1月17日に行う「阪神・淡路大震災の追悼無料コンサート」は、自身のライフワークとなっている。

かったという思いがあったからです。

わたしは、何も言わずに突然転校していなくなってしまうことでいじめっ子に仕返ししようとしていました。ですが、そうしなかったことで相手もひどいことをしていたんだと気付いて、本来のやさしい心を取り戻したんです。彼らもいまではこの世界のどこかでとても素敵な大人に

成長してくれていると信じています。いまの世の中ではいじめられたほうだけでなく、いじめたほうまで自殺してしまうという痛ましい事件が起きています。わたしが母からもらった言葉の大切さをどうして伝えてあげられなかったんだろうと思うと、本当に残念でなりません。みんながやさしい気持ちになって、いじめられっ子もいじめっ子も、ともに立派な大人になって堂々と生きていける世の中になってほしい。そのきっかけになるような絵本作りに、わたしの体験が少しでも役に立つのであれば、と考え直すようになりました。そんな経緯があった末に「じゃあ、やってみましょうか」と承諾させていただいたというわけです。

KEIKO NAKAJIMA
Q 「ありがとう」という言葉に
なかじま 中島さんの思いがたくさん
詰まっているみたいですね。

この絵本は、お母さんが子どもに声を出して読んであげてほしいなって思います。とくに最後、いじめっ子から「ありがとう」という言葉が返ってくるシーンでは、心を込めて読んでほしい。

最近、わたし自身がたくさんの子どもたちの前で絵本を朗読したのですが、もうダメ。自分の話なのに読んでいるうちにボロボロと涙が出てきちゃって(笑)。でも、子どもたちは最後にいじめっ子からどんな言葉が返ってくるんだろうって想像しながら聞いてくれています。そこで最後はちょっと間をあけるんです。そして、心を込めて「ありがとう」って言う。するとその瞬間、わーって大きな拍手が

湧くんです。そこでまたわたしはボロボロと涙(笑)。

この絵本の中にはお母さんが子どもを抱きしめている絵がありますが、河原さんが描いてくれた絵の中でも、わたしが一番好きな絵です。

いまの人たちって、抱きしめられた経験が少ないですね。ちゃんと自分の子どもを抱きしめてあげるのが親なんです。いまは抱きしめてあげることにすらわからない親が多い気がします。だからこそ、この絵本を親子で読んでほしい。そして素敵な「ありがとう」が言えるような人になってくれたら——それがわたしの願いです。



「わたしから、ありがとう。」16ページより

じぶん
自分にできること
かしゅ ひと
——歌手として、人として——

しょうがくせい ころ か
小学生的頃、いじめの渦
ちゅう なに なかじま
中にある、何が中島
さんを支えていたのですか？

住んでいる家のこととか、言葉になりがあるとか、小学校3年の音楽の授業で先生に「歌う声が大きすぎる」と怒られたことなどから、クラスの子にいじめられるようになりました。

いつもみんなに掃除をおしつけられて、一人で廊下を磨いたりしていましたよ。みんなが集まって写っている当時の写真に、遠くで一人で床を磨いているわたしが写っています。みんなと同じ時間に帰らなかったけど、掃除してればいじめられないんだと思って、遅くまで掃除をしていました。

いじめは本当につらかったけど、一度も学校を休みませんでした。それは、やさしい用務員さんがいてくれたから。掃除が終わってストーブの石炭を取りに行くと、「また君が来たのか」と用務員さんに言われるんです。そしていつも「出洩らしだけどね」と、お茶をいれてくれました。用務員さんは学校の七不思議など、いろんな話をしてくれました。お茶を飲みながら、ああ、さびしくないなあとしみじみ思ったのです。あの出洩らしはおいしかったなあ(笑)。

用務員さんのように、味方になってくれる人は必ずいます。今つらい状況にある人も、周りを見まわして、その味方を探すことが大事です。

これまで味方になってくれた方たちからもらったあたたかさを、今度はわたしが誰かに伝えたいんです。わたしは歌手ですから、まず歌を通じてその種をまいていけたらと考えています。まだまだほんのちっちゃな種ですが、いつかは花を咲かせ、そしてまた種を落とす。そんなことを繰り返しているうちに、いつかは大輪の花を咲かせてくれることを夢見ています。

KEIKO NAKAJIMA
Q
まいとし がつ にち はん
毎年1月17日には、阪
神・淡路大震災のチャ
リティーコンサートを開かれて
いるとうかがいました。

震災直後の追悼コンサートに参加
した時にはお客さんの数もぜんぜん少
なくて、なんだかいまにも街の灯が消えて
しまいそうなほどの悲しい雰囲気
だったように記憶しています。それでも、
毎年行くたびにお客さんが増えていく
んです。それがとても嬉しかった。人
が生きてる。そんな当たり前のことが嬉
しい。生きてるって、すごい。そう実感
しました。10年目以降、チャリティー
コンサートを開催しているのですが、
今年からは東京でやっています。そ
れは震災が起きた場所ではなく、遠
いところからもお祈りできるような心
をみなさんにも持ってほしいな、とい
う願いを込めたつもりです。

わたしのコンサートに来ていただい
てる方は、みんなわたしの子どもだと
思って歌っています(笑)。いろんな境
遇の方がいますけど、「よくここまで生き
てきたね」って抱きしめたくなくなっ
てしまうんですよ。みんな素敵な人生を歩んでほ
しい。わたしにできることなんて小さな
ことかもしれませんが、これからそんな
気持ちや伝え続けられるような歌い
手でありたいと思っています。



KEIKO NAKAJIMA

おや こ せんせい ちい き ひと
親子も先生も、地域の人も
みんな一緒に

KEIKO NAKAJIMA
Q
ゆめ
どんな夢を
もっていますか？

わたしの夢は、廃校になった校舎
を再利用して「心の学校」を作ること
です。廃校といっても、もちろんたく
さんの卒業生たちがいます。故郷へ
帰ってきた時、自分の学び舎がなく
なっていたら悲しいですよ。だから
子どもの頃に居る場所を残した
いというのが目的のひとつです。

たとえば、「心の学校」の子ども
たちには彫刻刀を持たせます。鉛筆
も自分で削ってもらいます。そんな
ことを親子で経験してもらいたい。す
ると、子どもはお父さんを見直す場
面がきつとあると思うんです。刃物
を上手に使うお父さんの姿を見て、
すごいなあって。そうやって、親は
育てる自信をつける。子どもは親を
尊敬する。そんな場を提供できたら
素敵だなと思うんです。

先生もただ腕組みをして見ている
だけじゃなく、泥だらけになって一緒
に田植えをしてもらいます。偉そうに
する人は先生に呼びません。たとえ
ば、そば打ち名人のおばあちゃんが



KEIKO NAKAJIMA

いちにち きょうじゅ
一日だけの教授になっちゃう。もし
かしたら、いまこれを読んでいる方
にも先生をお願いすることになるか
もしれません。わたしは青空教室
で音楽の先生をやります。地域の
合唱団でワークショップを続けてい
るので、ちゃんと自分のオリジナル・
メソッドはあるんですよ。大きな声の
出し方とか(笑)。そして、こうした一
日だけのにわか先生にこそ、日常で
疲れ果てている心を癒やしてほしい
という意図も持っているんです。

こんな夢が実現できたら、毎日、
素敵な「ありがとう」が交わされる
環境が自然にできくと思いま
す。そうしたら子どもたちの間から、
また、大人社会においてもいじめ
なんかなくなっていくんじゃないか
と、わたしは思います。



「わたしから、ありがとう。」

中島啓江／原案 河原まり子／作・絵
岩崎書店 2006年10月発行
¥1,365 (税込)

CD好評発売中



「千の風になって」

2006年8月発売
発売元：株式会社ピュアハーツ
¥2,000 (税込)

中島啓江オフィシャルサイト <http://purehearts.co.jp/nakajima/>

うつは人生の夏休みかも…コミックエッセイ『ツレがうつになりました。』



およそ5人に1人がかかるとも言われている“うつ病”。「こころの風邪」とも呼ばれるほど、めずらしくない病気です。しかし、正しい知識の普及はまだ十分ではないようです。うつ病はWHO(世界保健機関)の国際疾患分類にも定められている精神疾患の一種です。けっしてなまけや仮病ではなく、誰もがかかる可能性があります。うつ病は適切な治療で治すことが可能です。けれども放っておくと悪化して長引いたり、自殺につながる危険性もあります。最近、30～40代の働き盛りの男性の間にうつ病が増えていることもあって、うつ病に対しての関心がとても高まっています。そんななか、うつ病をわずらった夫との闘病生活を綴ったコミックエッセイ『ツレがうつになりました。』がベストセラーになっています。この本が売れている背景、うつ病をめぐる問題について考えてみたいと思います。

ツレがうつになりました。

〈あらすじ〉妻の私はマイナス思考の売れないマンガ家、落ち込んで愚痴をこぼす日々。一方、夫(ツレ)は前向き思考で几帳面、仕事もテキパキこなすサラリーマン。ところが、頼れるはずの夫がある日突然「死にたい」と言い出した!…病院での診断結果はうつ病。症状にとまどう私、回復の遅さにあせるツレ。一進一退を繰り返しながら、少しずつ回復していく…。健康な人には理解しにくいうつ病の症状と回復までの一年半の様子を、わかりやすくユーモアをまじえて描いていきます。



この本を作ろうと思ったきっかけを、作者の細川貂々(てんてん)さんは「彼がうつ病になった時、周りの人は全く理解が無かったんです。だから、うつ病についてもっと知ってもらいたかった。」と話してくれました。細川さんの夫でこのマンガの登場人物“ツレ”こと望月昭さんは、両親に理解してもらうために、本を薦めようと思ってなかなか適当なものが見つからなかったのだそうです。うつ病についての本はこれまでにたくさん出版されていました。しかし、医師や元患者のライター本人が書いたものがほとんどで、医学的で難しかったり、内容が深刻すぎたりして他人には薦めづらかったといえます。その点、『ツレうつ』は、絵柄も軽いタッチで可愛らしく、時に深刻な状況も視点をずらして面白く見せることに成功しています。

『ツレうつ』を出版した(株)幻冬舎の管野裕美さんは「最初“うつ病”という言葉の響きに重たさを感じましたが、マンガの下書きを見たらネガティブなイメージが消えました。この本によって救われる人がいると確信し出版する必要性があると思いました」と出版のいきさつについて話してくれました。2006年3月に発刊。これまで17版をかさね、総販売部数はなんと16万部。「自分だけではない」と知って安心したという感想や、

その後を心配してくださる方からのメール等、読者の反響の多さにもびっくりしています(管野さん)。

うつ病について知りたかったのに、いろいろな意味で敷居が高かった。そこへ、マンガという手法でうつ病への敷居を低くしたことが『ツレうつ』がヒットした理由と言えるでしょう。

うつ病の気付きにくさ

都立中部総合精神保健福祉センターの広報援助課長で医師の熊谷直樹さんにお話を聞きました。「うつ病は、うつ気分・マイナス思考・意欲低下(おっくう感、楽しみにしていることをやらなくなる)等の精神的な症状の他、不眠・食欲不振等の身体的症状もあります。

仮病やなまけと誤解されやすく、また、病気にかかっていること自体に患者本人も周りの人もなかなか気付きにくい。これには3つの原因が考えられます。①日常的な気分変動と症状との境界が、軽いうちは明らかでない。②①のような理由から病気の始まりがはっきりしない。③特定の症状がそろい、うつ病なのだと気付くシステムが日本では不十分。

③についてですが、うつ病は身体症状が先に出ることがあるので、原

因がわからなくて最初は内科を受診することが多い。身体症状にしか着目せず、うつ病を見逃してしまうと、睡眠薬や胃腸薬の処方だけということもおこりうるのです」。



90年代におこなわれた研究によれば、自殺未遂で都内のある病院に救急搬送された方の調査から、なんらかの精神疾患であったと推測されるのは8割。しかし、実際に受診していたのはそのうちたったの4分の1。また、全ての精神疾患に占めるうつ病の割合は通常3割程度だが、自殺企図者ではそれが4割だったそうです。うつ病にかかっていると気付くことは、自殺予防という観点からもとても重要だと言えます。

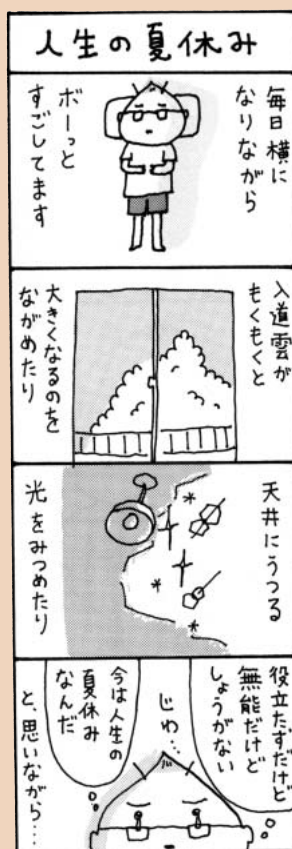
かかり始めに気付きにくいうつ病ですが、全く手がかりが無いわけではありません。例えば、以前は新聞をさっと読めたのに最近なぜか読めなくなったとか、休日には子どもと遊ぶのが好きだったお父さんがごろごろして遊ばなくなった、など。望月さんがある日突然「死にたい」と言い出した時、パートナーである細川さんの場合はどうしたのでしょうか。「何もわからなかったけれど、彼は普段から『自殺が一番いけないことだ』と言っていたので、これは絶対におかしいと気付きました」(細川さん)。うつ病のかかり始めを発見するには、今までとは異なるわずかな体調と行動の変化に注目すると良いのだそうです。

国際的なデータからの推計で、日本には約600万人のうつ病患者がいると考えられています。しかし、その2割ぐらいしか精神科を受診していないのが現状です。かかり始めに気付きにくい病気とはいえ、受診率の低さには精神疾患に対する誤った認識など別の要因があるのかもしれませんが。

「精神科病院に行きにくい場合には、総合病院の中の精神科・神経科や心療内科などの医療機関を利用するといいでしょう。最近は街中に“メンタルクリニック”とか“メンタルヘルス科”(大学病院等)という看板をかかげているところ等も増えています。

周りの方が代わりに相談する場合は、病院だと保険の関係で受けられない場合がありますから、保健所の『こころの健康相談』等が良いでしょう。ご本人が大企業にお勤めなら、企業内診療所とか、カウンセリングルームに行くのも手です。

うつ病は適切な治療で8割の人が半年ほどで良くなりますし、再発もありうるので、きちんとした医学的診断は受けた方が良いでしょう」(熊谷さん)。



人生の夏休み

細川さんは本のあとがきにこう書いています。「日常生活はほぼ元通りになりました。けれども、ツレ自身は病気をする以前とは微妙に違う人間になりました。」。望月さんは頑固で神経質だったところがやわらぎ、細川さん自身もマイナス思考ではなくなったそうです。

「夏休みは時間がとても長くて、子どもにとっては自分に向き合うための大切な時間でもあると思うんです。あと、宿題が出ますよね。うつ病で療養しているのはちょうどそんな感じ。何か宿題の答えを探さなくちゃいけないような。それが時にたえられないほどの重圧にもなってしまうのだけ」(望月さん)。

厳しい状況は“本当にやりたいこと”をも二人に意識させたようです。望月さんは家事が大好きだったので主夫に、細川さんは描くことが大好きだったのでマンガやイラストの仕事で家計を支えることになりました。うつ病の経験は二人にとってはむしろ自分らしく生きるという人生の財産になったわけです。病というつらい経験を前向きに生きていくことにつなげる姿勢には見習うべきものがあるのではないのでしょうか。

うつ病リターンワークコース

うつ病や神経症で休職中の方(都内在住または在勤)、これから復職を予定しているが自信がない方が対象のコースです。

※既に退職した方には、ワークトレーニングコースもあります。

●お問い合わせ先
東京都立中部総合精神保健福祉センター
電話:03-3302-7711
FAX:03-3302-7839

●ホームページ
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/chusou/index.html>

「ツレがうつになりました。」
細川紹々 著 (株)幻冬舎 刊

「ツレうつ。」
第2弾

「イグアナの嫁」も
好評発売中!



伝言板 1

information 01

(財) 東京都人権啓発センターの協賛行事

憲法週間行事

東京都では憲法週間行事として
「講演と映画の集い」を開催します。

講演

女優 中村メイコさん
「メイコのいきいきトーク
～わたしの生き方～」



映画

「明日の記憶」(字幕付)

出演: 渡辺謙、樋口可南子

監督: 堤幸彦

原作: 荻原浩 (光文社刊)

手話通訳・要約筆記有
託児室(一歳以上) ※要予約 託児ご希望の方は事前にご連絡ください。

お問い合わせ・託児予約は 東京都総務局人権部

TEL03-5388-2588 FAX03-5388-1266

日時 平成19年5月11日(金)

13:30～17:00(開場13:00予定)

場所 府中の森芸術劇場 どりーむホール
(募集定員1800人)

交通 ●京王線「東府中」駅下車徒歩6分
●JR中央線「武蔵小金井」駅北口バス約20分(8番のりば)
東府中駅行き「東府中駅」下車徒歩6分
府中駅行き(一本木経由)「第二小学校前」下車徒歩9分

伝言板 2

information 02

東京都における特定失踪者ポスター

捜査の手がかりとなるよう、
情報提供をお願いする
ポスターを作成しました。

ポスターに関する
問い合わせ先
東京都総務局人権部
TEL.03-5388-2586



伝言板 3

information 03

(財) 東京都人権啓発センターからのお知らせ

●人権問題研修講師出講事業のご案内

経験豊富で、時代感覚を備えた講師が出講いたします。

研修内容 「基本的人権」「セクシュアル・ハラスメントの防止」
「同和問題」など、さまざまな人権問題に対応します。

研修時間 3時間を原則としますが、1時間単位でも受け付けます。

料金 1時間 13,650円(消費税込み)

お問い合わせ・お申し込みは

TEL 03-3876-5372

普及情報課 FAX 03-3874-8346

メール kenshu@tokyo-jinken.or.jp

伝言板 4

information 04

●東京都人権啓発センター賛助会員の募集

団体賛助会員 一口30,000円 個人賛助会員 一口2,000円
(ともに会員期間は会費納入後1年間)

●特典(団体会員)

・「TOKYO人権」やセンターのホームページに
団体会員名を掲載いたします。

・「TOKYO人権」や行事の事前案内などをお送りします。

団体賛助会員の皆様 (平成19年3月現在)

(株) コ ミ ュ ニ ケ ャ ャ
(財) 東 京 都 交 通 局 協 力 会
劇 団 東 京 ル ネ ッ サ ン ス
東 京 人 権 啓 発 企 業 連 絡 会
(有) 東 京 エ イ ド セ ン タ ー
東 京 M X テ レ ビ
(社) 板 橋 区 シ ル バ ー 人 材 セ ン タ ー
(財) 東 京 都 弘 済 会
東 京 都 住 宅 供 給 公 社
(株) 日 本 ア ク セ ス
東 京 都 下 水 道 サ ー ビ ス (株)
東 京 地 下 鉄 (株)
(財) 東 京 都 中 小 企 業 振 興 公 社
(学) 高 宮 学 園
東 京 都 職 員 信 用 組 合
(株) W O W O W
東 京 電 力 (株)
(株) は と バ ス
(株) プ ラ ン ニ ン グ ・ ヴ ィ
(順不同)

お問い合わせは 総務課 TEL 03-3876-5371

リレーTalk

SHIZUE TAKAHASHI



地下鉄サリン事件被害者の会
代表世話人
高橋シズエさん

メディアは、あれから5年、10年と、節目を付けた取り上げ方をしがちですが、私たちにとっては、3月20日というのは毎年毎年、繰り返し事件の衝撃を再体験する日です。

被害者の会としては、毎年追悼日に何を行うかということについて、その都度企画を考えて実施してきました。今回この冊子を出すことにしたのは、私自身の中で、事件とのかかわり方にある変化が生じたことがきっかけでした。

昨年9月15日に松本智津夫被告の死刑判決が確定しました。それまでずっと裁判だけに意識が向かっていましたが、ふと視野が開けた感じがしました。そのときに思ったのは「当時、他の人たちは事件をどう考えていたのだろう」ということでした。振り返ってみると、事件後、私は周囲の人たちからいろいろと声を掛けてもらいました。「大変だったね」とか、「私はあのときこうだったんだよ」とか。そのことを思い出したとき、事件が人々の意識に深く残っていることを確信しました。そして、そのことによって、私自身が社会から孤立しないで済んだのではないかなと思うようになりました。

犯罪被害者は、自分が世間から浮いた存在であるという特殊な感覚に陥りがちです。それは例えば買い物をしていても、電車に乗っていても、自分を「世間とは違う」と意識してしまうためにおこるものだと思います。こうした疎外感から脱却するためには、悲しみや恐怖感が、自分だけのものではなく、他の人々と共有できるものだと感じる

TOKYO人権

地下鉄サリン事件手記集を編纂 “あの日の記憶を共有したい”

12人が亡くなり、約5,500人が重軽傷を負った地下鉄サリン事件から12年が経過しました。3月17日には都内で「地下鉄サリン事件から12年目の集い」が開かれ、会場の参加者に「私にとっての地下鉄サリン事件」と題した冊子が配布されました。事件のご遺族で、地下鉄サリン事件被害者の会代表世話人を務めながら、犯罪被害者のネットワーク活動に携わっている高橋シズエさんに、手記作成の経緯や犯罪被害者のおかれた現状などについてお話をうかがいました。

ことが必要だと思います。ですから、事件についての記憶や、感じたことを皆さんに書いていただけたら、被害者や遺族は社会とのつながりを回復できると考えたのです。

以前に、事件の遺族に手記執筆を打診したところ、「やっとここまでできたのに」「せっかく忘れようとしているのに」と、断られた経験がありました。ご遺族の正直な気持ちだったのだと思います。「避けられないものだから、現実を見つめよう」とは、当時の私には言えませんでした。私自身は、裁判の傍聴やメディアの取材等を通じて現実と向き合う機会が比較的多かったのだと思いますが、他の被害者の方はそういった機会も少なかったと思います。そうした機会が早ければ早いほど、被害からの回復も早いということは、かつてアメリカでの視察研修で学んだことでした。

昨年末から手記募集の呼びかけをした結果、最終的に54人の方々の手記を冊子に掲載しました。編集に際しては、被害者も、そうでない人も、また著名人も区別なく五十音順に掲載する方針を採ることにしました。12年という時間が経過しているにもかかわらず、平成7年3月20日の、その日、その時を綴ったものが多く、それだけ事件の衝撃が大きかったことが理解できました。

これまでは、犯罪被害者の権利意識が低かったことや、周囲の理解不足のために、何かにつけて「仕方ない」とあ

きらめることが多かった被害者たちも、今は自らが行動することの重要性に気が始めました。たとえばJR西日本の福知山線脱線事故の際、遺族どうしの連携がすぐにとれたのは、過去の信楽高原鉄道事故、阪神淡路大震災、明石歩道橋事故の被害者が活発に活動してきたという下地があったからだと思います。実際、遺族どうして連帯しようという意識は確実に高まっています。ただ、それをとりまく行政、司法、メディア、地域社会の意識や対応は、まだまだ遅れていると感じます。過去の事件や事故を教訓として生かすことに、日本社会は積極的であるとは思えないような事実に出くわすこともままあります。

支援体制が遅れていたのは、根拠となる法律がなかったからですが、平成17年に犯罪被害者等基本法が施行、同年末に基本計画が策定されました。これに基づいて、今後は犯罪被害者対策が進んでいくのではないかと期待しています。

地下鉄サリン事件についての社会的な関心が、徐々に他へ移っていくことは、昨今のように悲惨な事件が次々とおこる時代にあっては、成り行きとしてやむを得ないことかもしれません。それでも、犠牲を無駄にしないために、私たちが被害者の声を発信し続けていかなければいけないと思っています。

「私にとっての地下鉄サリン事件」を、ご希望の方は下記までお問合せください。

(財)東京都人権啓発センター 普及情報課
TEL03-3876-5372

財団法人 東京都人権啓発センター

〒111-0023 東京都台東区橋場一丁目1番6号 東京都人権プラザ内

TEL.03-3876-5372 FAX.03-3874-8346

http://www.tokyo-jinken.or.jp/ info@tokyo-jinken.or.jp

※「TOKYO人権」は都内図書館、区市町村窓口などに配布しています。

皆さまからのご意見、ご感想を お待ちしております

「TOKYO人権」は皆さまと(財)東京都人権啓発センターを結ぶ情報提供の場です。本誌についてのご意見、ご感想や人権に関して日頃考えていることなどをお気軽に寄せてください。

「TOKYO人権」ご希望の方へ

「TOKYO人権」は年4回発行しています。ご希望の方は、普及情報課までご連絡ください。